

# 令和3年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

## ①豊かな心をはぐくむ教育の推進

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 友達への思いやり	3 道徳・心の教育の充実
<p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p>	<p>子どもは、友達となかよくしていると思いますか。</p>	<p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）</p>
<p>1 「3・4」の段階で、児童と教職員の意識はほぼ同じであるが、これに比べ、保護者の評価がやや低くなっている。子ども一人一人を大切にしたい指導や対応を行い、学校への信頼が高まるように努めていかなければならない。                  2 3者ともに94%以上であり、児童と教職員においては100%になっている。しかし、保護者の評価は昨年より2%下がっているため、毎月のきずなアンケートを活用するなどして、今後も児童の人間関係を見つめて指導を継続する必要がある。                  3 「3・4」の段階で教職員と保護者は90%以上と高く評価している。保護者は昨年度より4%増加している。本年度は保護者への呼びかけの一つとして家庭道徳の日に行った保護者のコメントを学校通信に載せるなど家庭への啓発を行ったためと思われる。</p>		

## ②確かな学力を育む教育の推進

4 意欲的な学習態度	5 授業力向上	6 ICT活用
<p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<p>子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。</p>
<p>4 保護者と児童は、ともに「3.4」の回答が90%をこえ、教職員は、「3.4」の回答が88%であった。概ね学習に対する意欲は高いといえる。一方で、「そう思わない」と回答した保護者と児童が1~2%あり、学習意欲を持つことが難しい児童も数見られる。子ども同士をつなぐ学級づくり、子どもの実態に沿った学が意欲を高める授業づくりを行っていく必要がある。                  5 昨年度同様、保護者・児童・教職員とも「わかる楽しい授業づくり」について、「そう思う、どちらかといえばそう思う」が90%をこえている。今後も校内研究と連動した全教職員による授業改善の実施や熊本市学力テストの結果分析に基づいた授業づくりで、「思考力・判断力・表現力」の向上を目指していく。                  6 昨年と比較して大きな変化は見られなかった。保護者・教職員では、2の回答の割合が微増している。逆に児童は2の回答が微減し、「3・4」の回答が増加している。本年度は、児童もタブレット端末の操作に慣れ、新たな課題が生じてきた。それに伴い、情報モラル教育を学年ごとに取り組んでいる。また、アプリのパスワードの変更など情報モラルに関する児童の意識づけもより必要になってきている。次年度は、SNSを取り巻く危険性を知り、タブレット端末との上手な向き合い方を身につけさせたい。</p>		

## ③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり	④いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実
<p>子どもは、好き嫌いや食事や適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>	<h3 style="text-align: center;">8 児童生徒理解</h3> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていると思いますか。</p>
<p>7 家庭と学校の意識に大きなズレが見られる。保護者・児童による「2」の割合が約15%に対して教職員は、25%と高くなっている。これは、家庭では見えない学校でのタブレットの使用による昼休みの過ごし方や、給食時の偏食などが影響していると考えられる。次年度は、今年度あまり行なうことができなかった情報教育や、健康教育、食育に学校全体で取り組む必要があると考える。</p>	<p>8 子ども理解のために、全職員で一人一人の話を耳を傾けてきた。児童に関しては、4の値が昨年度の53%から56%に上がっており「2・1」の数値も3から1へと減少している。保護者については、昨年同様コロナ禍で授業参観や学級懇談会の場で話す機会をなかなか持てなかったことも影響していると思われる。来年度もいろいろな場を持ちながら子どもたちのことを話し合っていきたいと思う。</p>

## ④いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

9 いじめや問題への対応	10 学校の支援体制	⑤特別支援教育の推進
<p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>	<p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>	<h3 style="text-align: center;">11 共生社会を担う人材の育成</h3> <p>「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。</p>
<p>9 保護者の「3・4」の値が、昨年度より2ポイント上昇し85%になった。児童についても3ポイント上がり94%になっている。日頃より予防的対応を行いながら、児童の様子を見守っている。これらも個を大事にしながらいろいろな話に耳を傾け、そして児童、保護者の「3・4」の数値を、教職員同様に100%にしていきたい。                  10 学校内で配慮の必要な児童や気になる児童について見つめる会を出し合い共通理解を図った上で、校内支援委員会、ケース会議で具体的な支援を考えていった。出し合うだけでなく次のステップへと進み、具体的な支援方法を考えていけたことがよかった。                  11 「3・4」の割合が、教職員では100%、保護者では90%だった。保護者の中には、コロナの影響で交流や共同学習をすることが難しかったり制限されたりしていたため、相互理解の促進までできていないと感じた人がいたのかもしれないと思った。引き続き、感染予防をしながら交流及び共同学習の方法を工夫していくことが大事と思われる。</p>		

⑤特別支援教育の推進		⑥子どもたちの身近な安全対策の充実	
<b>12 安全と事故防止</b> 学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。		<b>13 施設・設備の安全管理</b> 学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。	
12 保護者、児童、教職員全てにおいて「3・4」の回答が90%を超えている。昨年度との大きな変化は見られないが、児童の「3・4」の回答が3%、職員の「3・4」の回答が1%上昇している。教職員の日常的な声掛けにより、児童の安全に対する意識が向上したと思われる。		13 保護者の無回答が多い。来校の機会が少ないためと思われる。児童と保護者は、概ねよく整備・管理されていると感じているが、教職員は、2と回答した割合が昨年度に比べ20%も上昇している。安全点検が上がったものに関しては早急な対応がされているが、整備されていない箇所の究明と対応が必要である。	

⑦最適な学習環境の整備	
<b>14 教育方針・目標の理解</b> 学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。	
14 昨年と比べ、「3・4」の割合が、保護者、児童については、若干上昇している。昨年の反省を踏まえ、zoomでの集会や通信等で分かりやすく提示してきたと考えられる。教職員の「2・1」の割合が若干増えているのは、懇談会等で直接伝えることができているのではないかと推測できる。	
<b>15 家庭や地域との連携協力</b> 学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。	
15 昨年と比べて、保護者の回答にそう差は見られないものの、教職員の2の割合が2割近く増えている。コロナ感染症のため、授業参観・学級懇談会などが開催されず、保護者と会う機会が少なかったことが考えられる。今後は状況に応じて、Zoomを使った配信等を活用しながら、家庭との情報交換の場を増やしていく必要があると考える。	

⑧本校の教育		
<b>16 自分の命と他人の命を守る</b> 子どもは、交通ルールを守り、けがや病気をしないように気をつけて生活することができていると思いますか。		
16 児童と保護者では「事故や病気から命を守る行動がとれた」と評価する割合が高く示されているが、教職員との認識の差が出ている。12の「安全教育」に示す割合は教員でも高い事から、新型コロナウイルス感染症予防教育が行われ、病気を予防する行動に対しては意識が高かったが、けがの防止については知識が行動化に深化していないことも考えられる。また、「1・2」の評価をしている児童もいることから、自らの命を尊ぶ健康教育の推進を図る必要性を感じる。「他人の命を守る」に対する評価は当調査から見てこない。		
<b>17 みんなが幸せに感じる行動</b> 子どもは、まわりの人を「いやだな」という気持ちにさせない行動ができていると思いますか。		
17 子どもたちは、平常時は仲良く協力して楽しく活動しているが、友達とトラブルが起きた時に自分の行動をふり返ったり相手の気持ちを考えたりすることが難しいことがある。児童は、相手の気持ちを考えずに行動して、周りに不快感を与えてしまうことがあるため、児童や保護者と教師の間にずれが生じていると思われる。アンガーマネジメントやソーシャルスキルを取り入れることにより、健全な人間関係が築けるようにする。		
<b>18 自分で考え、判断し、決定して、行動する</b> 子どもは、だれかに言われた通りにするのではなく、やってよいかやってみようか、自分で決めて行動することができていると思いますか。		
18 「3・4」の回答者数の割合は、保護者・児童は共に約9割であるのに対し、教職員は約5割（全て3と回答）である。教職員の多くは、「児童は、だれかに言われた通りにしている・自分で決めて行動することができていない」と考えていると推測できる。児童が「自分で決めて行動することができる」機会を設けたり、支援をしたりすることが必要だと思われる。		

来年度の具体的な取り組みについて	
○評価の高かった項目について、保護者は「16自分の命と他人の命を守る」児童は「2友だちへの思いやり」「12安全と事故防止」、教職員は「8児童生徒理解」「9いじめ問題対応」であった。評価の高かった項目については、引き続き取組を推進していく。	
○評価の低かった項目として、児童、教職員共に「18自分で考えて行動する」であった。これからの社会を生きる児童に必要な「自分で考え判断し決定して行動する力」を育てるため、児童が自分で決めて行動することができる機会を設けたり、支援をしたりすることが必要だと思われる。家庭と共に考え、実践していくことが大切だと考える。校則見直し検討委員会や学校指定物品検討委員会で児童の意見を取り入れたり、これまで学校から与えられてやっていた家庭学習の見直しを行ったりすることで、児童自ら考えて行動する機会を増やしていく。	
○保護者の評価の低かった項目は、「15家庭や地域との連携・協力」であった。コロナ禍の中、授業参観や学級懇談会等で保護者と話し合う機会がほとんどなかったことが原因であると考える。今後、保護者、地域との連携・協力の機会を工夫して取り組んでいく必要がある。	
○昨年度と比べて、評価の下がった項目として「7健康づくり」があげられる。コロナ禍であってもできる外遊びや体育的活動を工夫していく。また、家庭と連携した食育の推進等に取り組んでいきたい。	
○昨年度と比べて、改善された点は、「3道徳・心の教育の充実」「9いじめや問題への対応」「10学校の支援体制」であった。昨年度の反省のもと、教職員一丸となり取り組んだ成果が表れていると考える。今後も、子どもと向き合う時間を確保し、一人ひとりを大切に教育を進めていく。	

学校関係者評価	
○今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大の中、学校に行く機会がなく、子どもたちの授業参観等ができなかったことが残念である。しかし、学校評議員会や学校指定物品検討委員会において、子どもたちの考えを聞いたり児童の学校での1年間の様子を校長先生から動画や写真等の映像で見せてもらったりすることができた。制限のある中でも、子どもたちが生き生きと頑張っている様子に嬉しく思った。	
○コロナ禍の中、授業参観や学級懇談会において、集合しての話合いの場が持てない状況にあるため、Zoom等オンラインを利用した保護者とのコミュニケーションの機会を作りたい。	
○タブレットを使った学習が進んでいる様子に驚いた。これからの時代を生きる子どもたちには必要な力だと感じる。合わせて、特に小学校の間は、読み書き計算等の基礎基本を徹底して教えて欲しい。	
○登下校中に、タブレットを使っている児童を見かけたことがある。使い方について、再度話し合うことが必要である。	
○下校時、門から飛び出している児童が多い。一度立ち止まって車やバイクが通っていないかを確認して欲しい。	
○マスクを着用していても、挨拶がとてもしんどいと感じている。今後も道徳の時間や教育活動全体を通じて心を通わす挨拶を大切にすることを育てて欲しい。	
○校区を見回すが、子どもたちの姿をあまり見かけない。体力の低下を心配している。学校では、教科体育の時間だけでなく、休み時間等での外遊びを推奨していく。	
○今後も学校教育目標を周知する機会を増やし、地域や保護者、学校と連携して子どもたちを育てていきたい。	
○新型コロナウイルスの感染状況が心配だが、少しでも穏やかに過ごせるよう、応援している。	